

氏名	児 玉 雅 治
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3770号
学位授与の日付	平成14年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Effect of Steroids on Lipopolysaccharide/Interleukin 2 -induced Interleukin 18 Production in Peripheral Blood Mononuclear Cells (末梢血単核球における LPS/IL-2 による IL-18 産生に対する ステロイドの効果の解析)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 谷本 光音 教授 赤木 忠厚

学位論文内容の要旨

Interleukin (IL)-18 は interferon (IFN) - γ の誘導体であり、炎症反応の上流に位置する。Lipopolysaccharide (LPS) /IL-2 で刺激されたヒト Peripheral blood mononuclear cells (PBMCs) において、enzyme-linked immunosorbent assays (ELISA) で IL-18、12、10、IFN- γ を測定したところ、その産生は増加したが、ステロイドによる抑制効果は不十分であった。膜型 CD14 (mCD14) と接着分子 intercellular adhesion molecule-1 (ICAM-1) の発現を解析したところ、ステロイドにより mCD14 の発現増強が認められた。LPS/IL-2 によるサイトカイン産生のステロイド効果の減弱の一因は、mCD14 の発現増強によると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、ヒト末梢血単核球 (PBMC) に LPS と IL-2 を加えて刺激することにより IL-18 を産生させ、この IL-18 産生がステロイドにより抑制されるか否か検討したものである。この結果、部分的な抑制を認めた。また、ステロイドにより、PBMC の CD14 発現増強を認めている。これらの知見は、ステロイドの抗炎症効果における免疫学的作用機序に重要な示唆を与えるものであり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。